

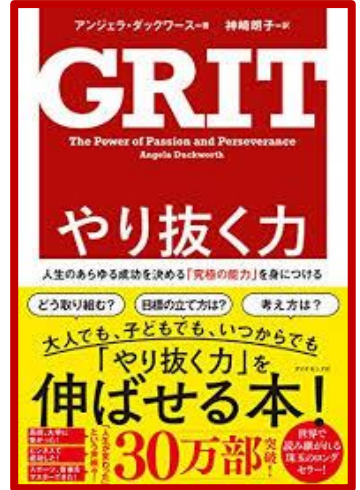
～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

★『GRIT』というコトバを聞いたことがありますか？★



今回は久しぶりの『啓発もの』の記事を書きました！
『GRIT（グリット）』とは『やり抜く力』『粘る力』であると定義されています。『困難に遭ってもくじけない闘志』『気概や気骨』などの意味を表すコトバで、『社会的に成功している方たちが共通して持つ心理特性』として、近年注目を集めています。

心理学者で、アメリカのパennシルバニア大学教授のアンジェラ・リー・ダックワース氏は、『才能』や『IQ』や『学歴』ではなく、個人の『やり抜く力』こそが、『社会的に成功を収める最も重要な要素』であるとして、『GRIT 理論』を提唱しました。現在、教育界や産業界をはじめ、さまざまな分野で反響を呼んでいます。みなさんもどこかで耳にしたことがあると思います。



『GRIT』は『生まれ持った能力』ではなく、『あとからでも身に付けることができるもの』、また、『知識や才能がなくても、『GRIT』を強く意識して実践に生かすことができれば、物事を成功に導くことができる』とおっしゃっています！

また、ダックワース氏は、右図のように『4つの要素』が必要だとしており、それぞれの頭文字を取って『GRIT』と呼んでいます。『GRIT』は英単語ではなく、『頭文字を集めたコトバ』だったのでですね。

困難に『立ち向かい』、失敗してもへこたれずに『諦めず』、『自発的に、主体的に』目標に向かい、『最後まで『やり遂げる』という『チカラ』ということですね。みなさんにもすでに『GRIT』があるはず！

- G**uts (ガッツ・闘志) : 困難なことに立ち向かう
- R**esilience (レジリエンス・復元力) : 失敗しても諦めずに続ける
- I**nitiative (イニシアチブ・自発性) : 自分で目標を見据える
- T**enacity (テナシティ・執念) : 最後までやり遂げる

★『GRIT』を伸ばす6つの方法★

- ① 今より少し難しいことに挑戦する
- ② 成功体験を積み上げる
- ③ 挑戦する事柄は変えてもよいとする
- ④ 『GRIT』を持つ、持ちたい人と行動を共にする
- ⑤ 『GRIT』を持つ人をトップがたたえる
- ⑥ 短期だけでなく長期目標を視野に入れる

『GRIT』を伸ばす6つの方法を左にあげます。①については『今より少し』という部分が大事です。『少し難しい』くらいのことであれば②のように積み上げられるはず。また、③のように『途中で変えてもOK』ということは気楽ですね。④も学校であれば実行しやすいはず。『受験は団体戦』というコトバも④を可能にしています。⑤については『学校側』ができることです。ご家庭でもぜひ『たたえる』ということに意識して生徒たちに声かけをお願いします！⑥については『今日の目標』『今週の』『今月の』『今学期の』『今シーズンの』『今年の』といった具合に、『小さなハードル』から『徐々に』に『より大きなハードル』を設定してはいかがでしょうか？

最後に『GRIT』の高い人の特徴を右にあげておきます。

★『GRIT』の高い人の特徴★

- ① 努力と関心を維持できる
- ② 幸福度が高く健康面も良好である
- ③ 社会や他者への貢献意識が高い

『GRIT』の高い人は、『自分のやっていることの意義』を見出し、『他者や周囲へ積極的に還元』しようという意識が高い傾向にあると言われています。人は、例えばお金を稼ぐこと、成長することなど自身をよりよくするために努力をします。しかし、そこに、『自分のためだけではない意義』や、『他者に貢献している実感』が湧くと、『より強力なモチベーション』になります。『GRIT』が高い人は、『周囲への貢献意識』を、やり抜くことに活かしていると考えられます。これは『エージェント』にも言えることです。『自分』と『その周囲の人々』の『Well-being』を向上させることが目的なので。 (文責：教頭 星野 亨)

Angela Lee Duckworth 氏の『GRIT』についての『スピーチ (日本語字幕付き)』はコチラ！ <https://youtu.be/I272ldG4jmY?si=S-IZJdJFOFTYXcz>



★校長より★ 『GRIT』の4つの要素をもう一度見てみましょう。前提としてあることは何でしょうか。何かを成し遂げるのは「困難」であり、「失敗」もするし、「迷うこともある」し、「簡単には達成できない」ということだということが分かります。物事を完璧にできたり、スマートにこなせたりということはそうそうできることではありません。大切なのは最後まで継続することなのです。

現在、受験勉強に取り組んでいる3年生の皆さん。「うまくいかないなあ。」と思うことも多いでしょう。でも、昨日より一つ問題が解けるようになることを成功体験として、積み重ね、最後までやり抜きましょう。勉強方法を変えたり、志望大学を変えたりすることもあります。最後まで受験に取り組ましましょう。苦しんだり悩んだりしながらも、最後まで頑張りましょう。それこそが将来を切り開くための王道です。さらに、そこで育まれた『GRIT』が将来、必ずあなたを助けてくれます。頑張り前南生。 校長 原 拓史